

日本フランス語フランス文学会

2014 年度春季大会

2014 年 5 月 24 日 (土)・25 日 (日)

会場：お茶の水女子大学 〒112-8610 東京都文京区大塚 2-1-1

第 1 日 5 月 24 日 (土)

受付 12:00 - 16:00 共通講義棟 3 号館 1 階ロビー

開会式 13:00 - 13:20 共通講義棟 2 号館 201

司会 お茶の水女子大学 田中琢三
開会の辞 お茶の水女子大学 中村俊直
開催校代表挨拶 お茶の水女子大学大学院
文化科学系系長 三浦 徹
会長挨拶 大手前大学学長 柏木隆雄

講演 13:30 - 14:30 共通講義棟 2 号館 201

支倉崇晴 (東京大学名誉教授・元早稲田大学特任教授)
「一會員の思い出」
司会 中村俊直

研究発表 共通講義棟 3 号館

第 1 部 14:45 - 16:15
第 2 部 16:30 - 17:30

懇親会 18:00 - 20:00

カフェテリア食堂「マルシェ」

*** 研究会** 10:00 - 12:00

第 2 日 5 月 25 日 (日)

受付 9:00 - 16:00 共通講義棟 3 号館 1 階ロビー

ワークショップ I 9:30 - 11:30 共通講義棟 3 号館
ワークショップ II 13:00 - 15:00 共通講義棟 3 号館

講演 15:15 - 16:15 共通講義棟 2 号館 201

Martine REID (Université de Lille 3)
« Stendhal et la représentation du masculin »
司会 岩本和子 (神戸大学)

総会 16:30 - 18:00 共通講義棟 2 号館 201

議長 塚本昌則 (東京大学)

閉会式 18:00 - 18:10 共通講義棟 2 号館 201

会長挨拶 柏木隆雄
閉会の辞 中村俊直

大会本部：お茶の水女子大学・仏語圏コース室

Tel/Fax:03-5978-5237

Mail:ocha2014haru@gmail.com

当日連絡先：Tel:03-5978-5237

- ・大会費等は同封の振込用紙にて、5月2日(金)までにお振り込みください。
- ・大会参加にあたり、招請状の必要な方は学会事務局までご請求下さい。
- ・各種委員会・役員会につきましては、学会事務局よりご連絡いたします。

一般控室：共通講義棟 3 号館 208・209

賛助会員展示場：共通講義棟 3 号館 208・209

大会費：1000 円

昼食：両日とも会場周辺の飲食店、コンビニエンスストア等が営業していますので、お弁当の用意はございません。

日本フランス語フランス文学会 2014 年度春季大会

研究発表会プログラム 5月24日(土) 午後

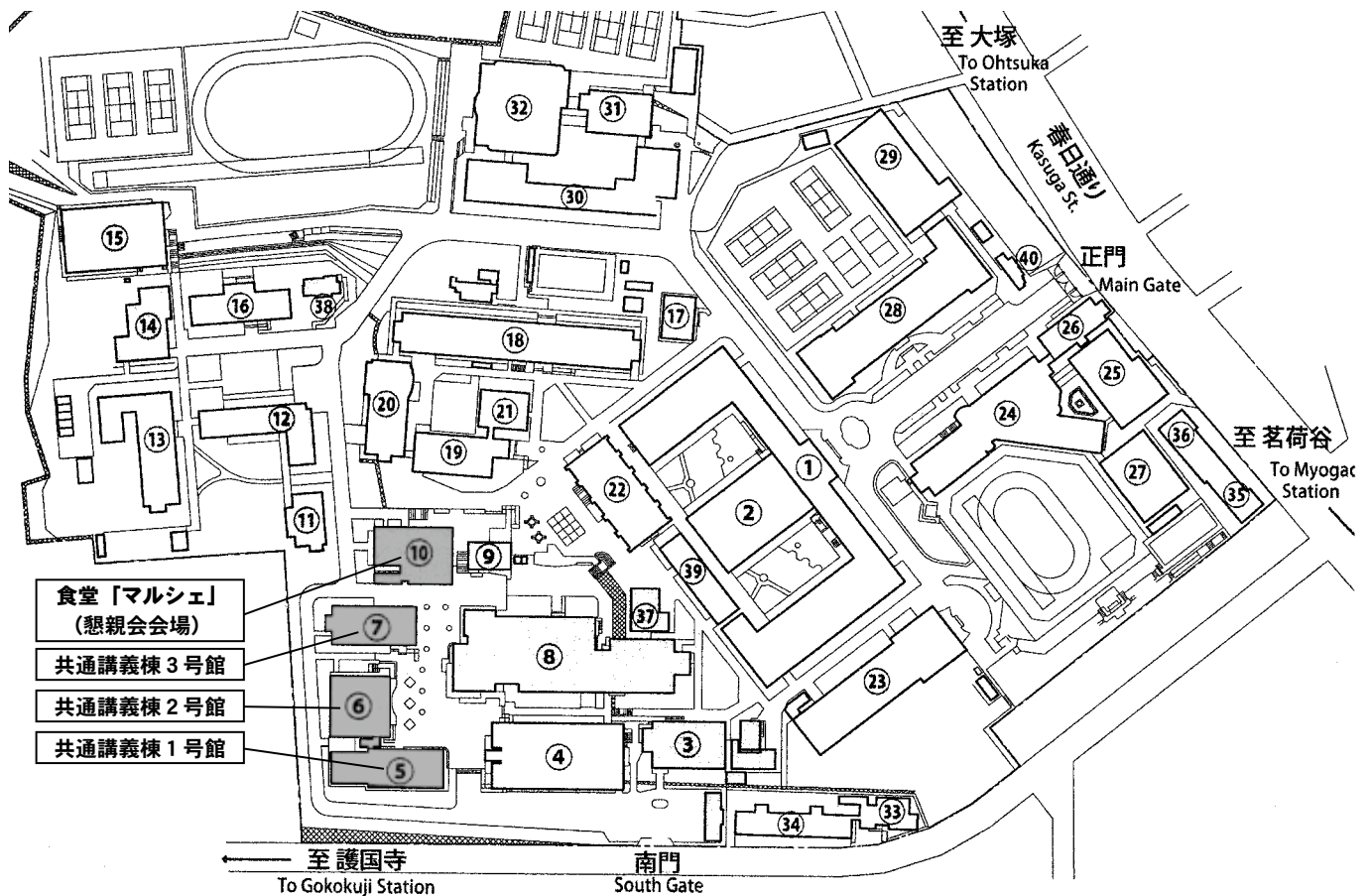
会場：共通講義棟 3号館

	第1部 14:45-16:15	第2部 16:30-17:30
A 会場	語学	
207 教室	<p>司会：酒井智宏（早稲田大学）</p> <ol style="list-style-type: none"> フランス人には聞こえない舌打ち音—日仏対照言語学的観点から 森田美里（大阪府立大学大学院博士後期課程） 移動手段を表す名詞を伴う場合の en と par の比較研究—なぜ en voiture と言えて par voiture と言えないのか 本間幸代（国際学院埼玉短期大学非常勤講師） 	
B 会場	18 世紀 1	18 世紀 2・19 世紀 2
104 教室	<p>司会：宮本陽子（広島学院大学）</p> <ol style="list-style-type: none"> 試練を受ける美德—リチャードソンからサドまで 鈴木球子（愛知大学非常勤講師） レチフ・ド・ラ・ブルトンヌ初期作品の変遷から見る『ボルノグラフ』 石田雄樹（東北大学大学院博士後期課程） 18 世紀の映像定着法—ティフェーニュ・ド・ラ・ロッシュ『ジファンティ』（1760）をめぐって 寺尾佳子（日本学術振興会特別研究員） 	<p>司会：玉田敦子（中部大学）</p> <ol style="list-style-type: none"> ヴォルテール演劇における「悔悟の念」の役割 渋谷直樹（関西大学非常勤講師） <p>司会：伊藤洋司（中央大学）</p> <ol style="list-style-type: none"> アルフレッド・ジャリにおける水と粒 佐原怜（パリ第4大学院博士課程）
C 会場	19 世紀 1	19 世紀 3
105 教室	<p>司会：熊谷謙介（神奈川大学）</p> <ol style="list-style-type: none"> マラルメにおける「現在」—「限定された行動」を中心に 白石冬人（東北大学大学院博士課程） 『イジチュール』と『アクセル』における詩的演劇性—機械仕掛けの神としての虚無の舞台空間 津留和規（早稲田大学大学院博士後期課程） 	<p>司会：畠山達（日本大学）</p> <ol style="list-style-type: none"> ロマン主義を定義しないために—1820 年代の言説をめぐって 鈴木和彦（東京大学大学院博士課程） 詩人と詩集—『悪の華』における都市的自我 佐藤陽介（早稲田大学大学院博士後期課程）
D 会場	20 世紀 1	20 世紀 3
408 教室	<p>司会：遠藤文彦（福岡大学）</p> <ol style="list-style-type: none"> Quelques pastiches de Pierre Loti par Proust 山本武男（慶應義塾大学専任講師） ジッドの『背徳者』における「アソシアシオン」の問題 森井良（早稲田大学大学院博士後期課程） <p>司会：星埜守之（東京大学）</p> <ol style="list-style-type: none"> Victor Ségalen François Cheng et <i>Le Dit de Tiyanyi</i> Ian Fookes（オークランド大学博士課程） 	<p>司会：塚本昌則（東京大学）</p> <ol style="list-style-type: none"> La mise en scène de la conscience dans <i>Le Yalou</i> de Paul Valéry 砂庭真澄 (ストラスブール大学任期付専任講師) ヴァレリーの若書きの詩について—形式的観点から 鳥山定嗣（京都工芸繊維大学非常勤講師）
E 会場	20 世紀 2	20 世紀 4
409 教室	<p>司会：岩野卓司（明治大学）</p> <ol style="list-style-type: none"> シュルレアリスムの宗教—モヌロとバタイユがすれちがうところ 丸山真幸（明治大学非常勤講師） ジョルジュ・バタイユの「第二の方法」—未完のシナリオ『燃えた家』におけるフィクションの構築 中川真知子（慶應義塾大学非常勤講師） ミラン・クンデラにおける越境とローカル性 田中佟子（静岡大学専任講師） 	<p>司会：滝沢明子（慶應義塾大学）</p> <ol style="list-style-type: none"> 「あいだ」の問いと出来事—メルロ＝ポンティ『眼と精神』とロラン・バルト『明るい部屋』の存在学における接合 小嶋洋介（中央大学非常勤講師） ロラン・バルトにおけるオレスティア的狂気—演劇論を中心に 八木橋久実子 (お茶の水女子大学大学院博士後期課程)

研究会 5月24日(土) 10:00-12:00 会場：共通講義棟1号館・3号館

1号館 101	日本スタンダード研究会	1号館 303	バタイユ・ブランシュ研究会
1号館 102	パスカル研究会	1号館 304	日本フランス語会
1号館 203	フローベール研究会	1号館 401	日本ヴァレリー研究会
1号館 204	日本マラルメ研究会	1号館 402	日本クロードル研究会
1号館 205	ラプレー・モンテーニュ・フォーラム	1号館 403	日本ジョルジュ・サンド研究会
1号館 301	バルザック研究会	1号館 404	日本カミュ研究会
1号館 302	18世紀フランス研究会	3号館 104	日本プルースト研究会

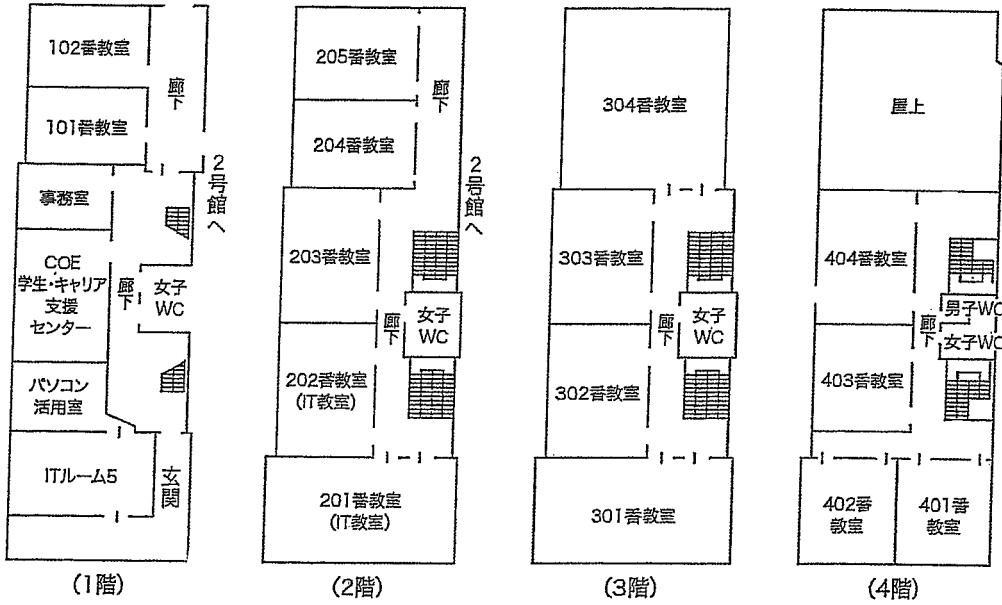
キャンパスマップ



※大学校内は全面禁煙です

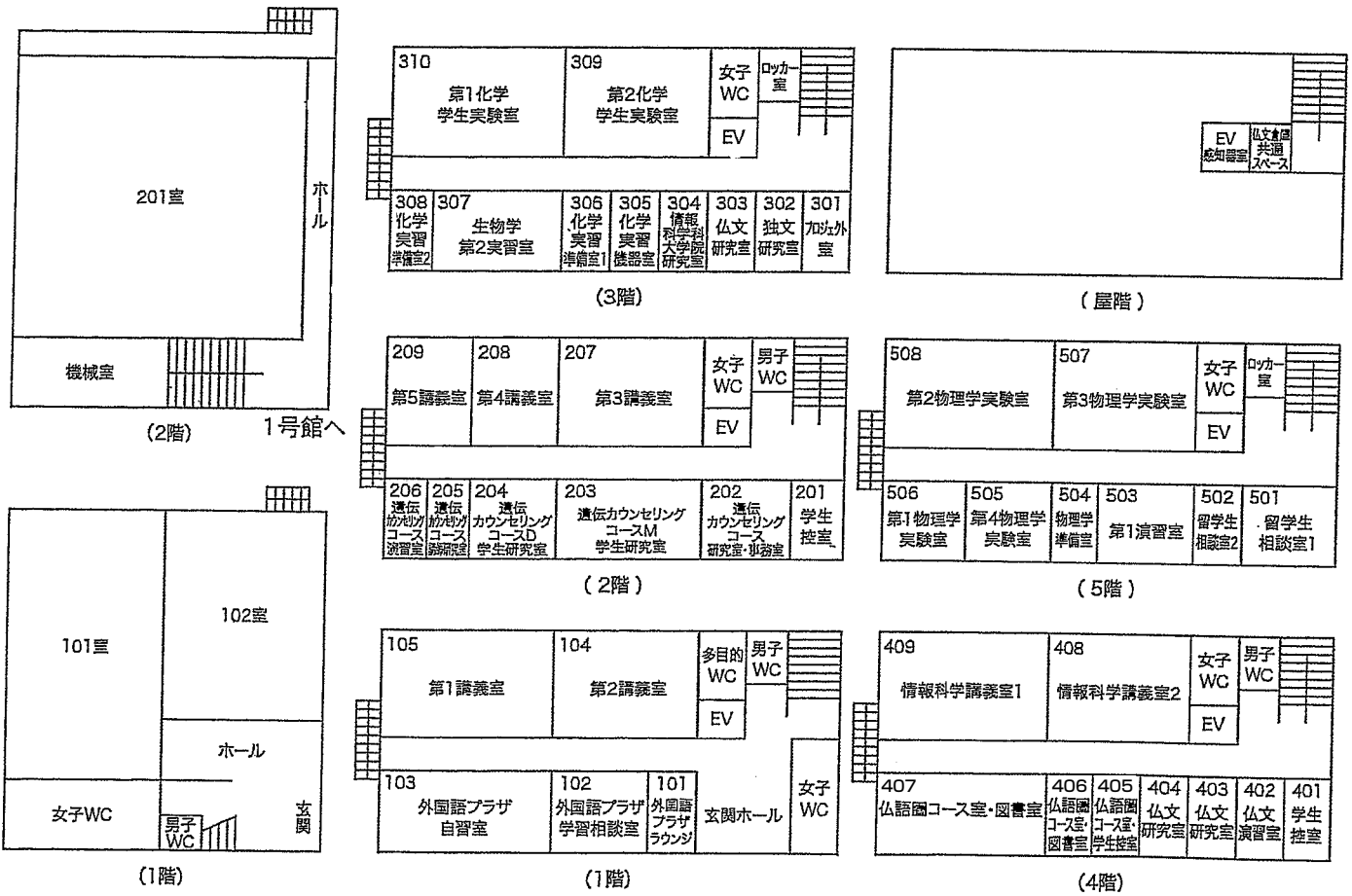
教室案内図

共通講義棟1号館



共通講義棟2号館

共通講義棟3号館



日本フランス語フランス文学会 2014 年度春季大会

ワークショップ要旨 5月25日(日)

会場：共通講義棟3号館

	ワークショップⅠ 9:30-11:30	ワークショップⅡ 13:00-15:00
105教室	<p>1. 人間と動物</p> <p>有田英也(コーディネーター 成城大学)、博多かおる(東京外国語大学)、郷原佳以(関東学院大学)</p> <p>生物学者なら「人間はどういう動物か」と問うだろうし、法学者は「動物とどのように付きあうべきか」と問うだろう。本ワークショップでは、人間と動物についての思いつきから、文学作品や哲学書の読みがどう変わってゆくかを、アトリエ公開の趣でお見せしたい。「創世記」には「海の魚、空の鳥、家畜、地の獣、地を這うすべてのものを支配させよう」とあり、中国の列子書いた寓話には、逆に「類無貴賤」とある。動物は人間の身体を養う食物であるとともに、人間は百獣の王(souverain)なのか、と問えば、人が自己を世界に位置づけるさいのモデルになる。博多は、バルザックの『動物寓話集』や『人間喜劇』のいくつかの作品をもとに、動物表象と人間観の関わりについて考察する。郷原は、ジャック・デリダにおける動物たちについて考える。有田は、労働する動物という観点から人間と、その伴侶たちについての思考を、カミュとシモーヌ・ヴェイユに探る。</p>	<p>1. 文学に読むファッション、文学を着るファッション</p> <p>徳井淑子(コーディネーター、お茶の水女子大学名誉教授)、内村理奈(跡見学園女子大学)、新實五穂(京都服飾文化研究財団)、朝倉三枝(神戸大学)</p> <p>文学作品には、執筆された時代のファッションが描き込まれることが少なくない。逆に言えば、文学テキストは服飾の歴史を知るための恰好の資料であり、事実を伝える資料に欠く時代には特に貴重である。一方でテキストの服飾描写に脚色があることも確かであるが、そこに作家の意図を読み取ることは、時代の服飾表象を知る手がかりになる。ジョルジュ・サンドがなぜ男装をしたのかは、異性装の人物が登場する彼女の小説を読まずには理解できないし、描かれた服飾を通してその時代に生きた人びとの心的な傾向がわかることであろう。このような資料価値とは別に、文学作品とファッションの関わりは意外にも多彩である。文学作品に取材された文様が衣服を飾る中世の例もあれば、ファッションと諸芸術の関係が親密になる20世紀に、詩と衣裳を合体させたソニア・ドローネーの「ロープ・ポエム」の試みもある。物語や小説の他、旅行記や年代記、また作法書なども含めて、描かれたファッションが何を語るのか、いくつかの事例で示してみたい。</p>
207教室	<p>2. 301年目のディドロー現実とフィクションを疾走するエクリチュール</p> <p>寺田元一(コーディネーター、名古屋市立大学)、大橋完太郎(神戸女学院大学)、川村文重(神戸女学院大学)、田口卓臣(宇都宮大学)</p> <p>大橋は『ソフィー・ヴォラン宛書簡』における情動の描写から、川村は『ラモーの甥』の言葉のリズムと身体のリズムから、田口は『運命論者ジャックとその主人』、『ブルボンヌの二人の友』、『これは作り話ではない』などの後期小説から、ディドロの écriture の運動を描き出す。</p> <p>この企画はディドロ生誕301年を記念するものであり、とりわけディドロの écriture fictionnelle の位相を参加者とともに論じ合いたいと考えます。同時にディドロの他の écritures との関係も議論できればと、考えています。最後に、欲張りですが、1.18世紀フランスの écriture fictionnelle の全体的動向との関係、2.19世紀や20世紀の écriture fictionnelle との異同、3. écriture と littérature の関係なども、会場のみなさんの参加を得て、多少とも話題にできれば幸いです。</p>	<p>2. カナダ文学の現在ーケベックを中心に</p> <p>小倉和子(コーディネーター、立教大学)、山出裕子(明治大学)、廣松勲(法政大学)</p> <p>昨年(2013年)は、英系カナダのアリス・マンローがノーベル文学賞を受賞し、ケベックのハイチ系移民作家ダニー・ラフェリエールがアカデミー・フランセーズ会員に選出されて話題を呼んだ。カナダは英・仏2言語を公用語とし、独特な文化を築いている国だが、この機会にその文学状況を概観してみたい。話題の中心はケベック州をはじめとするフランス語圏の現代文学に置かれるが、その特質を浮き彫りにするためにも、広くケベック内・外の英系文学をも視野に入れる予定。</p> <p>アンヌ・エペールをはじめとする“生粋の”ケベコワによるフランス語文学、マヴィス・ギャラントのようにモンレアルを中心に活躍する英系作家たち、ケベックに集まる多様な出自の移民作家たちについて、カナダの他の地域の作家とも比較しながら、言語政策や「間文化主義」との関わりの中で、その傾向や目指すものを明らかにしたい。</p>
409教室	<p>3. 死者の記憶と共同体</p> <p>竹内修一(コーディネーター、北海道大学)、福島勲(北九州市立大学)、田中悟(神戸大学)</p> <p>本ワークショップは、近年活発になってきているように見える所謂メモリー・スタディーズに対して、とりわけ死者の記憶と共同体をめぐる研究に対して、フランス文学/思想の研究者の側から如何なる貢献ができるか、その可能性を探ることを目的とする。そのために『会津という神話——〈二つの戦後〉をめぐる〈死者の政治学〉——』の著者を招聘し、死者の記憶をめぐる理論的考察(「死者人称論」と共同体、主として国家との関係についての議論を紹介していただく。そのあと、福島がアラン・レネ監督/マルグリット・デュラス脚本の映画『二十四時間の情事』における死者の記憶の抑圧について、竹内が第五共和国最初のパンテオン葬に於けるアンドレ・マルローの演説(« Transfert des cendres de Jean Moulin au Panthéon »)について、発表を行う予定である。</p>	<p>3. 共にあるということはどうことなのか?ー共同体論再考</p> <p>岩野卓司(コーディネーター、明治大学)、湯浅博雄(東京大学名誉教授)、澤田直(立教大学)</p> <p>共同体という言葉は、国家や地域のコミュニティのような社会的な共同体や、特定の教団のような宗教的な共同体を連想させるかもしれない。しかし、共同体(communauté)がコミュニケーション(communication)という言葉と関わりが深いことを考慮にいれれば、共同体はある実体としての共同体ばかりではなく、共同性、つまり人間の共同の関係、他者との関係を指す言葉だとも言えるだろう。そう考えると、文学も書き手と読み手、作品と読者、テキストとテキストのコミュニケーションを根拠にしている限り、共同性や共同体を例証するものと言えよう。本WSでは、バタイユ、サルトルとナンシー、ブランショといった思想家の共同体論について発表しながら、共同体について新しく考えていくことを目的とする。彼らの共同体論は、文学、宗教、政治という多方面で展開されているし、共同体、共同性、他者との関係を考えていくという点でも、多くの文学研究者に開かれているだろう。</p>

○ お茶の水女子大学交通案内

最寄り駅等 { 地下鉄丸ノ内線 茗荷谷駅 から徒歩 約7分
都営バス 大塚2丁目停留所前

◎ J R 池袋 駅から

地下鉄利用の場合

丸ノ内線・池袋駅〔新宿、荻窪方面行〕 ――― 約5分 ―――→ 茗荷谷駅 下車

都営バス利用の場合

池袋駅東口 乗車〔東京ドームシティ行〕 ――― 約20分 ―――→ 大塚2丁目停留所下車
(都02乙番)

◎ J R 大塚 駅から

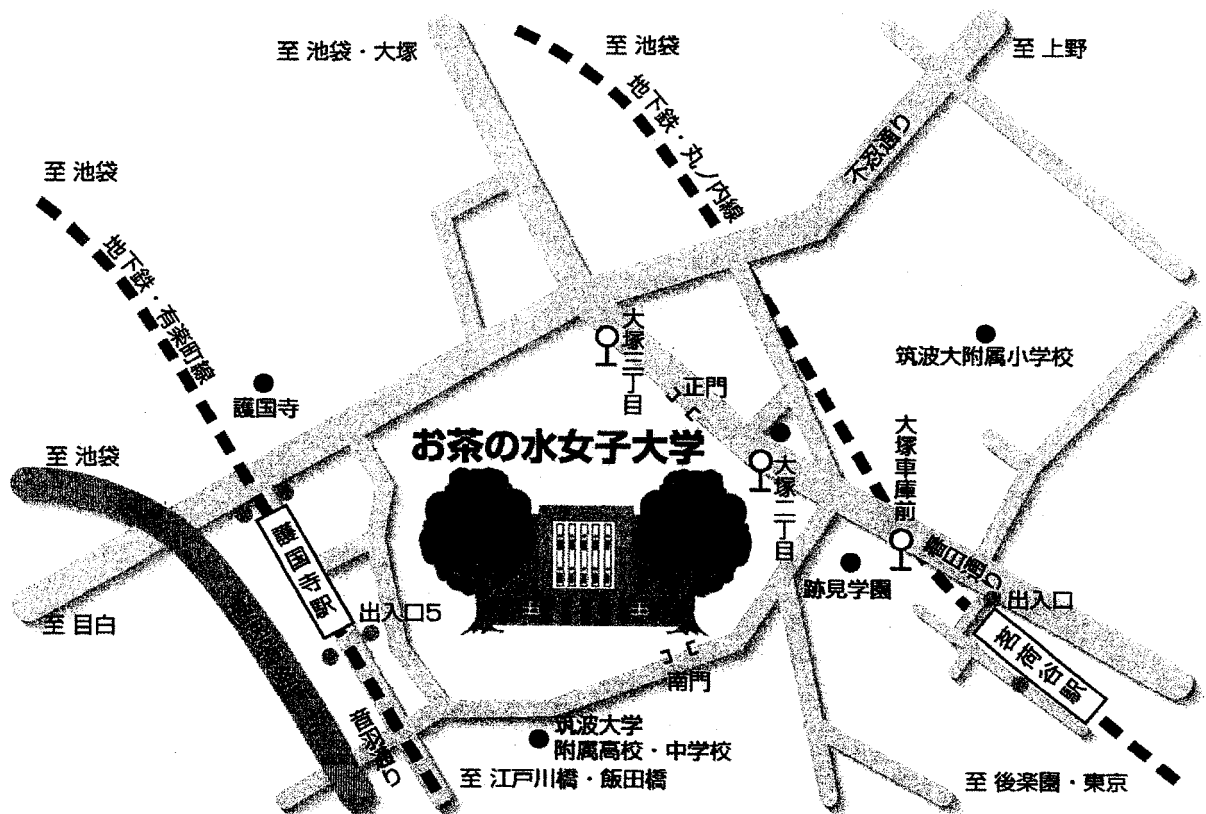
都営バス利用の場合

大塚駅南口 〔錦糸町駅前行〕 ――― 約10分 ―――→ 大塚2丁目停留所下車
(都02番)

◎ J R 東京駅又はJ R 御茶ノ水駅から

地下鉄利用の場合

丸ノ内線・東京駅〔池袋行〕 ― 約5分 ― 御茶ノ水駅 ― 約6分 ―→ 茗荷谷駅下車



※大会当日は2日間とも南門が閉まっていますので正門からお入り下さい。